



WORLD SCOPE 1

世界トレンドまるかじり



PARIS

© Les Archives Paulin



Centre Pompidou

●Place Georges-Pompidou, 75004 Paris
☎01-44-78-12-33
M HÔTEL DE VILLE, RAMBUTEAU
開11時~21時
休火 料一般14ユーロ
www.centrepompidou.fr



© Pierre Paulin © Coll. Centre Pompidou, Musée national d'art moderne / Photo: Georges Meguerditchian

上から時計回りに、60年代初頭のピエール・ポラン。1970年制作の「内装デザインの模型No1.」。61年に描かれた「メゾン・ド・ラ・ラジオ」のアーティスト用控室のためのデザイン。

© Pierre Paulin
© Coll. Centre Pompidou, Musée national d'art moderne / Photo: Jean-Claude Planchet



© Olivier Amsellem

Galerie Jousse Entreprise

●18 rue de Seine, 75006 Paris
☎01-53-82-13-60 M SAINT GERMAIN DES PRÉS 開14時~19時(月) 11時~19時(火~土) 日 www.jousse-entreprise.com

半世紀に及ぶクリエイション、ピエール・ポランの足跡に注目。

リボンチェアやタンチェアなどオーガニックな形状の家具に、日本でもファンが多いピエール・ポラン。1970年の大阪万博ではフランス・パビリオン、ポンピドゥー大統領の依頼でエリゼ宮の内装を手がけた、フランスを代表する名デザイナーだ。

遺族の大規模な寄贈を機に、ポンピドゥー・センターで8月22日まで大回顧展が開催されている。家具、デッサン、模型など100点ほどを時系列に展示して半世紀の仕事を振り返る同展は、とりわけ50~60年代の豊富な資料が彼のクリエイションの起源を物語る。一方、ギャラリー「ジュス・アントルブリーズ」では、6月11日までポランによるエリゼ宮のための家具展を開催しており、併せて訪ねたい。

高田昌枝 ジャーナリスト

アンダーからアウターへ、下着で探るヒトとカラダの関係。

ここ数年、ユニークな視点の展覧会で話題を呼ぶヴィクトリア&アルバート博物館。今度は「アンダレスト(脱がせる)」とのタイトルで、18世紀から現代までの下着の歴史を見せている。

衛生管理や身体のイメージといったソフトへの視点、テクノロジーやデザインの変遷といったハードへの視点という両面から考察。いまや、肌着や下着がアウターウェアになる時代。200点に及ぶ下着、広告ポスター、写真の展示品を通じ、どのように時代ごとのファッションに影響を与え、さらには下着という既成観念から脱皮したのかも分析する。無意識のままで身に着けている下着にここまで焦点を当てたユニークな展覧会は、発見に満ちている。

Michiko Kagawa ライター

© Chedville



© Victoria & Albert Museum, London

Victoria & Albert Museum

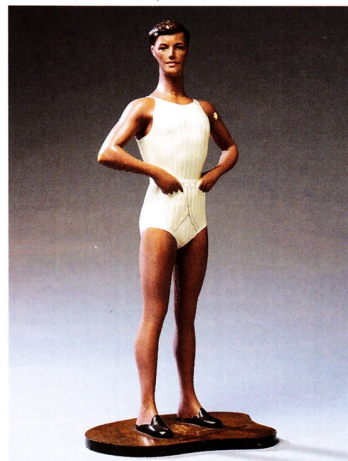
●Cromwell Road, London SW7
☎020-7942-2000
M SOUTH KENSINGTON
開10時~17時45分(月~木、土、日) 10時~22時(金)
料一般12ポンド
www.vam.ac.uk

© Jennie Bristow



いまや、「見せる」ファッションアイテムへと昇格したブリーフ。

© Victoria & Albert Museum, London



英国でYフロントと呼ばれるブリーフの宣伝用マネキン。1950年代、英国では爆発的な人気商品だった。



LONDON



NEW YORK

Courtesy of Metrograph LLC



古きよき時代のムービースタジオを思わせるメトログラフの外観。映画を通して人々がつながる、コミュニティセンターとしても機能する。

Metrograph

●No.7 Ludlow Street, New York, NY 10002
☎212-660-0312 M EAST BROADWAY
料12ドル~(映画、それ以外は入場無料) http://metrograph.com

Metrograph LLC, Photo by Takako Ida



Metrograph LLC, Photo by Takako Ida

オンデマンドの時代だからこそ、映画館に足を運びませんか?

新たなインディーズムービーハウス「メトログラフ」が、ローワーイーストサイドにオープンした。創設者は自身のアパレルブランドをもつアレクサンダー・オルチ。映像アーティストとしても活動する彼が6年がかりで実現させたプロジェクトだ。

35mmと最新デジタル映写のどちらもを備え、古典も最新作にも対応。レストランやバー、映画関連のブックストアも併設し、映画鑑賞に限らず楽しみを提供する。オンデマンドで映画を観る時代に、あえて映画館へ足を運び楽しさを思い出させてくれる新名所だ。こけら落としのプログラムは映画館に行くことにちなんだ作品を選ぶなど、キュレーションもユニーク。今後のイベントにも期待が高まる。

鈴木希実 コーディネーター